

4—22

1 (表紙)

元文五年四月

御公儀^江御訴詔之御請并竹嶋渡海之次第先規より書写シ覺記

伯耆国米子町人

村川市兵衛

大谷政太郎

2 (白紙)

3 (注 3ページは横線で見消)

一 大廣院様御代元文五年四月八日從御国屋敷河村彦十郎様を以

御公儀^江被為遊御達候ニ付乍恐祖父之者儀

御公儀^江御訴詔之儀共被為達御沙汰候趣委^者其節祖父大谷九右衛門事参府仕候条

自分日記写シ并私共先祖之者^江竹嶋渡海之儀被為仰付候次第先規より書付之写シ
左之通御座候、尤右御達之節願書之写シ如左

伯耆国米子町人

村川市兵衛

大谷政太郎

乍恐奉願口上之覺

4

一 竹嶋渡海之儀私共先祖之者^江被為仰付候旨趣^者松平新太郎様因幡伯耆

御領知之節元和三年御両国御仕置之為御上使阿部四郎五郎様被為遊

御越候砌竹嶋渡海仕度旨私共先祖之者御訴詔申上、翌元和四年則先祖之者^共

当御地^江相詰御願奉申上候處御吟味之上願之通渡海可仕旨、同年五月十六日

新太郎様^江以御奉書被為仰付、則右之御奉書新太郎様より先祖之

者共頂戴仕就夫御目見被為仰付冥加至極難有仕合奉存候、其後毎歳

渡海仕候處、元録⁽⁴⁴⁾五年彼嶋^江唐人相渡依之

伯耆守様より御注進被仰上夫より六年七年八年迄段々御差図を以渡海仕候處、年々
唐人相増候様子ニ付追々

伯耆守様より御注進被仰上候處、竹嶋渡海制禁之旨元録⁽⁷⁴⁾九年正月廿八日

5

伯耆守様迄以御奉書被為仰出候旨則從

伯耆守様被仰渡候御事

一 竹嶋渡海制禁被為仰付候ニ付、村川市兵衛元禄年中当御地^江相詰御歎之
御訴詔申上候内病氣ニ付、其上国元^江残シ置候妻子及渴命候之間御願半ニ

先国元ニ帰度旨御断申上罷帰候、其節大谷九右衛門儀幼少尤困窮仕候ニ付、右市兵衛与一所ニ当御地江相詰候儀難相成乍存其儀無御座候、其後享保九年竹嶋渡海之次第段々被為遊御尋候ニ付、委細御請書差上候砌大谷九右衛門何卒当御地江相詰御歎之御願申上度所存御座候得共困窮仕罷有候ニ付、乍残念其節茂及延引候御事

右之通元和四年より元録(44)四年迄竹嶋江渡海仕候處、彼嶋江唐人相渡り候ニ付

渡海制禁被為仰付候、以後兩人之者渡世可仕様茂無御座候處

御領主より御憐愍を以先及渴命不申様ニ被仰付置候、是以

御上之御大恩之筋難有仕合奉存旨然者当時至極及困窮候ニ付乍恐御慈悲を以

如何様共取続候様被為仰付被下置候者難有仕合奉存候、全奉対

御上江私式之者ク様被御願奉申上儀千万恐入奉存上候得共

台徳院様御代元和四年より元禄七年迄七拾七年之間

御代々様江御目見被為仰付、其上先祖之者共御紋御時服頂戴仕、并道中

御紋之指札蒙御免竹嶋江渡海之船江御紋之船印頂戴仕、且道具蒙

御免元和四年より元録(44)四年迄七十四年之間毎歳彼嶋江渡海仕、尤渡海禁制

被仰付候已後今以

御領主より及渴命不申様御憐愍を以御取計之御事共是又右書頭候通重々

莫太成奉蒙御大恩候者之子孫末々ニ到至極之及困窮、此上難取続相成候

得者偏ニ御厚恩忘却仕候様ニ茂可罷成哉与誠以不顧恐今度大谷九右衛門

相詰右兩人之者身命相続候様ニ御慈悲之筋乍恐奉願上候、何卒願之通

被為仰附被下置候者難有仕合可奉存候、以上

伯耆国米子町人

大谷九右衛門

元文五年申四月日

寺社御奉行所様

御役人中様

右之通御座候

8 (注 8ページは横線で見消)

一 祖父大谷九右衛門儀上野宮様江御目見申上候處、其由緒を以万里ノ小路

民部卿様ヲ以御尋被遊候者其方儀竹嶋渡海制禁ニ付渡世可致難儀何を

致家業候哉与御尋被為遊候ニ付、随而御請申上候者從

台徳院様常憲院様迄御代々様江参勤之独礼申上來り候者共

御座候得共則因伯之御大守御内伯州米子之御城主より御憐愍を以
米子被入込申候、魚鳥類之間屋店之座を私家業ニ被為仰付被
下置候、此儀を以渡世仕家名取続難有仕合奉存候、并御大守様
御在国之節^者年始為御礼御目見申上候、右之趣^乍恐御請書奉
差上候、以上
米子町年寄

元文三年末十月六日

大谷九右衛門

上野御坊官衆中様

9 (注 9ページは横線で見消)

右之通御請書仕万里小路民部卿様^江差上申候之處追^而

被仰候^者右之書附

宮様^江入御覽申候処御不便被為思召、此後

公方様^江願之筋有之候へ^者從

殿様宜敷御執成被遣候様内々御願并米子御城主より^茂

御憐愍御加被遣候様御願可被為成遣之趣被仰出、則

御請ニ致登山候様被為仰附候ニ付御礼御請ニ罷出申上候間

難有仕合奉存候

10 (注 10ページの8行迄横線で見消)

一 宮様^江御目見申上候由緒を以大廣院様御代從

宮様御宿坊を以蓮花寺五郎八様迄被仰候^者伯州米子大谷九右衛門儀

則米子之御城主より御憐愍を以魚鳥之間屋店之座を被仰附夫を

渡世仕罷在候、不相替被仰付置候^者

宮様御満足可被為思召之旨御頼^{ニ而}御座候、右ニ付從

大廣院様

宮様^江

御請口上之趣

一 此度大谷九右衛門義

11

御頼被為遊趣承

知仕畏奉存候

一 九右衛門

御公儀^江御願申上候儀も

御座候、此已後右之儀

相願候^{ハ者}役人共評儀も

仕可遣之由、此儀^者津田

周防より内々^{ニ而}護法院

まで之口上^ニ候

十二月廿六日

護法院

1
2

右之通御座候

一 右願書之面書頭候通私共先祖之者より尤親父共節迄

公方様^江御目見被為仰附候節御紋之御時服拝領仕候条

大守様^江御目見之節^茂先祖之者共儀御紋衣拝領頂戴仕罷有候、且又私共

祖父之者共迄江府^江相詰罷有候節^者例月朔日為御礼

大守様^江御目見被為仰付候^ニ付、尤祖父大谷九右衛門儀

御公儀^江御訴詔已後

大廣院様御代延享元年八月廿六日於鳥府乍恐御在国之節年頭御礼之儀

奉願候處達

上聞、則以御書付願之通被為仰付候之旨大和様於御館御役人衆中様被

1
3

仰渡候趣如左

御用之儀有之候間

唯今

御館^江可被出候、以上

八月廿二日



大谷九右衛門殿

<sup>牛尾金右衛門
上村惣右衛門</sup>

追^而申入候此紙面

昨晚可遣之处夜^ニ入候

之故今日遣候、何分早

御屋敷^江可罷出候、以上

1
4

八月廿三日

右之通御座候条、則御書附之写シ如左

其方儀御在国之節

年頭

御目見願之通被

仰附候

子八月廿二日

右之通御座候

一 右本文^ニ書頭候通私共先祖之者^江竹嶋渡海之儀被為仰附候次第

先規より書附之写シ^{ニ而}御座候、尚以委儀^者此外相送候書附所持仕候

15

竹嶋渡海之次第先規より書附之写シ如左

一 貞享元年二月廿日

権現様以来之御勘状又^者御由緒之御書有之^者早速可相断之旨

御触付^而乍恐私共先規之者儀

権現様以来

御由緒之次第別^{而者}

台徳院様御代元和四年五月十六日新太郎様^江以御奉書竹嶋渡海

之儀被為仰附候趣委細以書付相断之候儀御座候、尤右

御奉書之写シ如左

從伯耆国米子竹嶋^江

16

先年舟相渡之由候

然^者如其今度致渡

海之段米子町人

村川市兵衛大谷甚吉

申上付^而達

上聞候之处不可有異儀之

旨被仰出候間被得

其意渡海之儀可被

仰付候、恐々謹言

永井信濃守 在判

17

五月十六日

井上主計頭 在判

土井大炊頭 在判

酒井雅楽頭 在判

松平新太郎殿

人々中

右之通御座候

一 台徳院様以来御目見被為仰附候節於御城竹嶋鮑二箱献上仕候、尤献上之為御殘御老中様方御側御用人様方若御年寄様方

18

寺社御奉行様方^{江茂}進上仕候付

台徳院様御代御側御用人松平右衛門太夫様より御書被成下候ケ様之類余夥所持仕候處祖父共節紛失申候、尤相殘候写シ如左

一筆申入候、其地^江被参候

付くし鮑三百入壱箱

持参之由留主居之者

共方より日光へ申越候心付

之通祝着申候、尚^而追

可申候間不具候、恐惶謹言

松平右衛門太夫

19

五月六日

正綱書印

追^而申入候

御目見之儀ハ伊豆方^江

申入候、以上

村川市兵衛殿^参

右之通御座候

一 台徳院様以来御代々様御上意之趣従御老中様方被為

仰渡候^ニ付、右之次第従安部四郎五郎様以御書被為仰越候ケ様之類

并御老中様方より被為預御挨拶候豎御捻其外御役人様方

御書を^茂余夥所持仕候處、右書頭之通紛失仕候、尤相殘候写シ如左

20

好便之間一筆令申候

然^者今度於京都進上

仕度旨被申候桐之木

串鮑去月土井大炊頭殿

御披露被成一段首尾

能上り申候竹嶋^江渡海

様子を^茂委

御尋無殘所仕合候条

此旨可申遣由大炊頭殿

被仰渡候条如斯候、御

21

披露之刻則小濱民部方へ

申遣江戸^江廻させ候

得_者

上意付_而小濱民部方_江

申越其御請_茂疾当

着候之間満足可有候

片便宜故令省略候

委細_者期後慶之時候

恐々謹言

安倍四郎五郎

正之書印

2
2

霜月十五日

村川市兵衛殿_参

へ安倍四郎五郎様

酒井讃岐守忠勝

人々御中

昨日_者伯耆国町人大屋九右衛門

私宅へ参候付御使之指添候、右之

九右衛門義竹嶋へ船を渡候、此頃

被帰候例公方様へ御目見仕候由

令得其意候、随_而貴殿儀火々天之

節毎日御普請場へ御出之儀

2
3

御太儀存事_ニ候、何も期面上之

節候、恐惶謹言

八月十五日

為歳暮之御祝義

過朔日之御状殊

手拭五入一箱贈給

過分至候、御手前無

事御入候由目出珍重候

我等義も無恙有之

事候、将亦御紙面之

2
4

通四郎五郎可申聞俚

来春竹嶋へ渡船六月

中_者可有御参勤旨

万慶其節可申承候

恐々謹言

大久保宮内少輔

十二月十七日

村川市兵衛様

御返事

右之通御座候

25

一 台徳院様以来御代々様御目見之節御役人様方より御礼之次第書被為

成御渡候ケ様之御書付_茂余夥所持仕候处、右書頭候通紛失仕候、尤

相残候写シ如左

五月廿八日

一 如例月 御礼相済

参勤之御礼

綿式百把金馬代 松平肥前守

綿百把金馬代 松平主殿頭

蠟燭二箱金馬代 松平筑後守

一 上杓弾正大弼在着_ニ付候_而以使者蠟燭五箱二種一荷被差上之使者銀馬代

26

以自分御礼色部又四郎終_而御次之間伺公之面々并落縁_{ニ而}

伯耆国米子町人参上

大屋九右衛門

箱肴

右終_而入御

一 大猷院様御代寛永十五年二月西之御丸御書院床之板御書棚之板

御用_ニ付竹嶋梅檀可差上旨被為仰附候處、首尾能上納之仕候、此外

御代々様_江御上納奉相勤候節從御役人様方右御請取書被成下候、ケ様之

類余夥所持仕候处、右書頭候通紛失仕候、尤相残候写シ如左

請取申御材木之事

一 式枚ハ 唐梅檀長沓丈四尺四寸幅式尺沓寸

あつさ式寸沓歩

27

一 式本ハ 桐長六尺沓寸内沓本ハ中_{ニ而}五尺五寸廻り

沓本ハ中_{ニ而}五尺三寸廻り

合四本

右之進上木請取申者也、如件

正保弍年

長井清太夫印形

酉ノ九月廿日

中根七左衛門印形

美濃部与藤次印形

伯耆国米子町

村川市兵衛殿

右之通御座候

一 嚴有院様御代明曆三年六月於江府曾祖父村川市兵衛儀家督始_而参府

28

仕候節被為遊御尋候ニ付竹嶋渡海、尤例格并

御代々様_江御目見之節御紋之御時服拝領被為仰附候次第、委細御請書仕

差上候条、右書付之写シ如左

乍恐口上之覺

一 私共竹嶋_江渡海仕候儀_者

台徳院様御代元和五牛五月阿倍四郎五郎様就御執持松平新太郎様_江以

御奉書竹嶋渡海之儀被為仰附、右御奉書私共頂戴仕罷有難有仕合

奉存候事

一 竹嶋渡海船_江

御紋之船印且道具蒙御免今以左之通御坐候、先年右船朝鮮国_江

29

漂着仕候節_茂御紋之船印相立候故朝鮮表_{ニ而茂}別_而御馳走_{ニ而}御座候由

且又私共儀道中御紋之指札蒙御免難有仕合奉存候事

一 御目見之儀寺社御奉行様_江奉願候、尤私共当御地_江罷下候儀八九年_{ニ而}

一度参府仕候并御目見之度々御紋之御時服尅拝領仕難有仕合

奉存候事

右之通御座候、以上

明曆三年酉六月日

伯州米子町人

村川市兵衛

右之通御坐候

一 常憲院様御代寺社御奉行秋元撰津守様より御使を以御口書被成下候写シ如左

口上之覺

30

今度当御地_江被相越候付

昨日_者御入来殊竹嶋丸串

鮑一箱預持参怡悦之至候

為其如斯候、以上

秋元摂津守使

五月廿日

一 常憲院様御代元録⁽⁴⁴⁾ 七年三月祖父大屋九右衛門儀

御目見之年番^ニ御座候処、尤幼少^ニ罷有候^ニ付同苗大谷藤兵衛儀為代当御地^江相詰、則三月廿八日参上之為御礼

御目見被為仰附難有仕合奉存候、尤元録⁽⁴⁴⁾ 五年六月竹嶋^江船相渡候得共

3
1

唐人罷有所務不仕帰帆仕候^ニ付例格之通

献上之鮑無御座候間改^而干鯛一箱献上仕、且御役人様方^{江茂}箱肴差上申候

其刻為御挨拶以御使者御口上書被成下数通右書頭之通紛失仕候、尤相残候写シ如左

口上之覚

昨日^者干鯛一箱

預持参候、令祝着候

為其如斯候、以上

秋元但馬守使

3
2

三月廿九日

昨日^者干鯛一箱

持参令祝着候

為其以使申候、以上

加藤佐渡守使

三月廿九日

右之通御座候

一 元和以来竹嶋^江渡海之船節々朝鮮国^江流着仕候条、尤午年大谷九右衛門仕出船数之内壹艘式拾壹人乗帰帆之節朝鮮^江被吹流候處船^者破損致候得共人数^者船頭水主共無別条陸^{江上}り候^而、則朝鮮人出合介抱仕其許之於奉行所吟味有之、其上逗留中馳走日本^江帰帆之節国王より船頭

3
3

水主^江 餞別目錄等之次第、其砌對州之役人中^江 船頭水主委細書付出候
控之写シ如左

伯耆国漂流人口書之覚

- 一 伯耆国米子^与申所之村川市兵衛大谷甚吉仕出之拾三端帆之船式艘人数五十人乘
当年午二月三日日本国出船、同十三日隱岐国^江着船四月彼所出帆、同八日竹嶋^江着船仕候事
- 一 船主村川市兵衛大谷甚吉儀
- 御朱印頂戴仕居每歳竹嶋^江船差渡相務候物^者ミちの魚の皮同油串蛇^{ニ而}
- 御座候、則御朱印之写所持仕罷有候事
- 一 国本よりハ右式艘之船^{ニ而}竹嶋^江渡於此所拾五端帆^{ニ乘}三艘^{ニ而}七月三日彼嶋帰帆
之節遭難風式艘之儀^者何国^江漂着仕候^茂不存候、拙者共乗船^者沖中^ニ二夜

3
4

漂罷有、同五日之夜四ツ時分朝鮮国之内ちゃんきり灘と申所致漂着、於浦口
船破損仕、夜八ツ時分陸へ游ぐ上り居申候処朝鮮人出合我々手引申ちゃんきりへ
列参宿老軒^{ニ式}三人宛召置候^而粥を振廻申候、此所^ニ五日逗留仕候、家数廿軒
程相見へ申候其内地頭被罷越切麦酒肴等振廻被申候、其後ちゃんきりの城下へ
被引越、五日逗留致シ候、其間兩度酒肴振廻被申候事

- 一 七月十四日ちゃんきりを罷立道中せそんと申所之地頭より酒肴振廻被申事
- 一 うるさんと申所三日逗留仕候、此外道中^ニ泊り申候得共所々之名覚不申候事
- 一 同廿一日とくねき^江参着仕候其日菓子酒肴振廻被申候、其外逗留中

三度酒肴振廻御座候、此所^ニ逗留七月廿一日より十月三日迄罷有候、同四日
とくねきよりさすとふと申所へ罷越候、此時^茂とくねき地頭より酒肴

3
5

菓子振廻被申候事

- 一 七月六日より十月四日迄ハ朝鮮国より扶持方塩増薪等迄賜之御馳走^{ニ而}御座候事
 - 一 十月四日さすとふ^江罷越候刻朝鮮^江被差置候役人中出合我等在所
- 并宗門手形所持之道具等之儀迄念比^ニ改有之其所より船^ニ乗役人中付キ
十月七日對州之内わにの浦と申所へ着船致、昨九日^ニ爰許^江罷着候事
人数式拾老人宗門并歳付

3
6

- 一 浄土宗 旦那寺 伯耆国 大蓮寺 歳三十五 上乘 治郎兵衛
- 一 禅宗 旦那寺 同国 安国寺 同三十六 船頭 太郎右衛門
- 一 同宗 旦那寺 同国 福嚴院 同四十 鉄砲打 久兵衛
- 一 同宗 旦那寺 同国 西福寺 同廿五 同役 又右衛門
- 一 浄土宗 旦那寺 同国 大蓮寺 同四十式 鍛冶 与三右衛門
- 一 同宗 旦那寺 隱岐国 浄土寺 同三十七 あわひつき太郎右衛門

一	同宗	旦那寺	同国	同寺	同三十六	同役	小作
一	同宗	旦那寺	同国	同寺	同三十式	同役	五郎作
一	真宗	旦那寺	伯耆国	万福寺	同三十八	舟大工	長兵衛
一	禅宗	旦那寺	同国	法増寺	同式十九	楳取	傳助
一	同宗	旦那寺	同国	安國寺	同式十式	桶大工	久右衛門
一	真宗	旦那寺	同国	万福寺	同三十九	水夫	作兵衛
一	法花宗	旦那寺	同国	本教寺	同式十式	同	重兵衛

37

一	禅宗	旦那寺	隱岐国	万泉寺	同式十九	同	作助
一	同宗	旦那寺	同国	同寺	同五十四	同	治郎左衛門
一	真宗	旦那寺	伯耆国	万福寺	同廿七	同	治兵衛
一	禅宗	旦那寺	同国	法増寺	同四十四	同	角助
一	同宗	旦那寺	隱岐国	万泉寺	同三十式	同	甚七
一	同宗	旦那寺	同国	同寺	同廿九	同	九郎助
一	浄土宗	旦那寺	同国	浄土寺	同四十	同	五助
一	同宗	旦那寺	同国	同寺	同三十	同	彦八

右我々宗門寺請之儀東国出船之刻大谷甚吉手前ニ留置宗門寺請を別紙ニ
 相認船奉行江遣往来切手出シ申候を請取出帆致候然ル處、破損之刻右之往来切手

38

箱共ニ捨申候故所持不致候、尤船ニ積候荷物船道具之儀破損之節捨り申候を
 朝鮮人被入念取揚給候品々改御座候、以上

十月十日

右之趣船頭治郎兵衛書付差出候覺書如件

寛文七年

大谷九右衛門

二月廿九日

右之表末ノ二月廿九日書之写シ

右ニ書頭候通朝鮮国逗留中從国王船頭水主江貼別
 之目錄式通、如左

漂倭處別贈	
頭倭一人	
白米貳斗	堅紙
白紙貳卷	薄樣之厚キ
從倭二十一名	樣成紙
白米各壹斗	朱印
白紙各壹卷	
丙午九月日	
巡察使（花押）	

漂倭二十二入	
白米十肆石拾斗	右同断
大口魚壹百拾尾	
新酒貳拾貳瓶	
東苽貳拾貳塊	
生鮮貳拾貳束	
甘醬陸斗陸斗	
際	

丙午十月日
右同断

一 竹島^{江茂}渡海仕候道法之内隱岐国嶋後福浦より七八里程渡り候^而松嶋と申小嶋御座候
ニ付、此嶋^{江茂}渡海仕度旨

台徳院様御代御願申上候処願之通被為仰附竹嶋同事ニ年々渡海仕候、尤每度
奉差上候、竹嶋渡海之絵図ニ書頭候御事

一 台徳院様以来御巡見被為成御通候節、伯耆国米子御止宿之砌村川市兵衛
大谷九右衛門被召出竹嶋渡海之儀、尤

台徳院様以来私共先祖より御目見被為仰付候次第被成御尋候ニ付委細言上
則書付差上申候御事

一 元錄⁽⁴⁴⁾ 五年壬申年如例年竹嶋^江渡海仕候處、唐人罷在依之帰帆仕候、夫より六年

七年八年迄御差図を以渡海仕候處、年々唐人相増シ罷在候付所務不仕

4 2

帰帆之節其次第委細御届申上候、然^者元錄⁽⁴⁴⁾ 九年丙子正月廿八日

伯耆守様^江以御奉書右竹嶋渡海制禁之旨被為仰出候趣被為

仰渡其段奉畏候、尤右御奉書之写シ如左

先年松平新太郎

因州伯州領知之節

相伺之伯州米子之

町人村川市兵衛大谷

甚吉竹嶋^江渡海

至尔今難致漁候

向後竹嶋^江渡海之

4 3

儀制禁之可申付旨

被仰附候間可被存

其趣候、恐々謹言

土屋相模守^{在判}

正月二十八日

戸田山城守^{在判}

阿部豊後守^{在判}

大久保加賀守^{在判}

松平伯耆守殿

4 4

右之通御座候

一 竹嶋渡海制禁被為仰出候^ニ付、家業を失渡世難仕、依之

祖父村川市兵衛儀元禄十丑八月江戸^江罷下り、同九月寺社

御奉行所井上大和守様迄乍恐御歎之願書差上、暫時江戸^江相詰

罷有候處病氣^ニ付在所^江罷帰候事

一 有徳院様御代享保九年四月竹嶋渡海之儀被為遊御尋其旨於鳥府

御書付を以被仰渡候趣如左

江戸御尋書之写シ

- 一 先年竹嶋^江伯耆国より相渡候者唐人出合追払候、其節唐人何人程嶋^ニ居有之候哉、弓鉄砲等持居申候哉、年号月日共委細書付可差上候事

45

- 一 其已後又罷越候處其節^茂唐人出合追払候、其節^者唐人兩人召捕罷越候其節之首尾并年号月日相調可差上事
- 一 右之嶋^江有之候品々委細書付可差上事
- 一 竹嶋東西広サ大概之絵図仕可差上事
- 一 右嶋^ニミち有之候哉、其外獸類有之由相聞候、此段委細書付可差上事
- 一 右嶋^ニ竹木^者如何様成もの有之哉書付可差上事
- 一 唐人相渡り候時節と伯耆国より相渡候時節違候様相聞候、此段も可申上事
- 一 伯耆之浦より竹嶋迄渡海之数里^者如何様有之候哉、竹嶋より朝鮮^{江者}如何程有之候哉、此段書付可差上事
- 一 右之通御尋^ニ付御請書差上候、所々写如左

46

第御一箇條之御請

- 一 元禄⁽⁴⁴⁾五壬申年二月十一日米子より出船、隱岐国嶋後福浦^江着岸、三月四日福浦より出船、同廿六日朝五ツ時竹嶋之内いか嶋と申所^江着船、様子見申候得共鮑大分取上ケ申様相見江不審^ニ奉存候故、同廿七日朝濱田浦^江参候内唐船式艘相見江申候内壹艘^者すへ船壹艘^者浮船^ニ居申候唐人三拾人計見へ申候右之浮船乗り此方之船より八九間程沖を通り大坂浦と申所^江廻り申候右之内兩人陸^ニ残り居申候處^ニ、又小船^ニ乗り参候故、此方之船^ニ乗せ申候^而、何国之者と相尋候得^者壹人ハ通辞にて朝鮮国かわてんかわくの者と申候、此嶋^者日本之地^ニ而從

御公方様御代々拝領仕毎歳渡海致シ候嶋^ニ而御座候所^ニ何とて其方共

47

参候哉^与相尋候得^者此嶋より北^ニ当り嶋有之三年^ニ老度宛国主より用^ニ而鮑取参候国元^者二月廿一日拾壹艘^ニ出船致シ、難風逢五艘^ニ而以上五拾三人乗此嶋^江二月廿三日^ニ流着此嶋之様子見申候得^者鮑有之候間致逗留鮑取上ケ候由申候左候ハ^者此嶋を早々罷立候様申候得^者船少損候間造作仕調次第出船可仕候間其許之御船是へ御すへ可被成と申候得共此方共船^者すへ不申先人計陸^ニ上り見分仕候處、兼^而此方より拵置候諸道具并漁船八艘見江不申候付、通辞^江段々吟味仕候得^者浦々^江廻遣し候由申候先此方之船すへ申様^ニと申候得共唐人^者大勢此方^者纔式拾壹人^ニ而御座候^ニ付無心元奉存竹嶋より

4
8

三月廿七日七ツ時出船仕申候、然共何^{ニ而茂}印無御座^{而ハ}如何と奉存唐人^与
拵置候串鮑少笠壺つ網頭巾壺つ味噌かうし壺玉取之出船いたし

四月朔日石州濱田浦^江着船仕夫より四日雲州雲津浦迄参翌五日

七ツ時米子^江帰帆仕候右之趣元禄五壬申歲四月六日竹嶋渡海之船頭

水主共口上申候、右唐人弓鉄砲所持不仕哉^与被為遊御尋候其節吟味

仕候處、惣^而武具類所持不仕候

第御二箇條之御請

一 元録⁽⁴⁴⁾ 六癸酉年二月下旬米子出船、雲州雲津^江三月初雲津より出船、隱岐国

嶋後福浦^江着致シ四月十六日四ツ時福浦を出船、同十七日八ツ時竹嶋^江参着

仕候處唐人大勢居申候付陸^江上り老人吟味仕候處不埒之申様^{ニ付}

頭^与相見へ申候者老人下方之者老人以上兩人召連竹嶋を同十八日八ツ時

出船仕、同廿七日罷戻り候^而早束右之段鳥取^江御届申候處

4
9

御東被成御窺右兩人之唐人長崎^江被遣候、其後戌亥兩年渡海仕候得共
唐人大勢居申候付無務^{ニ而}帰帆仕候

第御三箇條之御請

一 竹嶋有之品々委細書付差上候様被為仰出候付古来渡海之船頭水主共へ

相尋見知候物迄品々書留置候付此度左之通書付可差上申候

木竹之類

一 五葉松 一 梅檀 木の色黒赤 一 たいたら

実ハくちなし

の白きものニ御座候

一 きわだ 一 椿 一 とが

一 楓 一 竹 一 まの竹

一 柊 一 桐 一 かび

5
0

草之類

一 にんしん 一 にんにく 一 ふき

一 こほう 一 あをきは 一 ぐみ

一 いちご 一 いたとり

一 辰砂岩ろくせうのやうの物御座候得共漁迄を心掛申^{ニ付此段者}

睨と知不申候

一 彼地^ニ大河三筋御座候水主共右川^{ニ而}手水遣ひ申候節山風^{ニ而}何と

なく宜香仕候其外^ニも珍敷物^茂可有御座奉存候共深山^{ニ而}

山の中へ^者深く参かたく候由申候

第御四箇條之御請

5
1

- 一 竹嶋東西広サ之儀、竹木重く相知不申由并嶋廻り^者凡拾里余も可有
御座哉^与水主共申候、絵図之儀^者別紙ニ仕差上申候

第御五箇條之御請

- 一 竹嶋^ニミちの魚之外獸類有之哉と御尋被為遊候左之通書付差上申候
鳥獸之類

一 ミち魚 一 ねこ 一 鼬

一 山雀 一 雀 一 あな鳥

一 鳩 一 ひよ鳥 一 かはらひは

一 四十雀 一 かもめ 一 鵜

一 なぢこ 一 つばめ 一 鷺

5
2

- 一 くまたか 其外たか類

第御六箇條之御請

- 一 唐人相渡候、時節と伯耆国より相渡候時節と違候哉と被為遊

御尋候、古来此方より^者二三月ニ渡海七月上旬帰帆仕候、年々渡海之節

吟味仕見申候處此方より彼嶋小屋之内かこい置候諸道具漁船等少シ^茂

取散シ候様子相見へ不申候間唐人共前々渡海仕候儀^者無御座と奉存候

但元録⁽⁴⁴⁾五壬申年三月初^而渡海仕候様奉存候、然共唐人渡海之

時節^者不奉存候

第御七箇條之御請

- 一 伯耆国より竹嶋迄渡海之数里并竹嶋より朝鮮^江渡海之数里

5
3

被為遊御尋候、米子より竹嶋^江百四五拾里竹島より朝鮮^江四拾里程

可有御座之様水主共申候、濱目三ツ柳村より隠岐国嶋後迄三拾五六里御座候

竹嶋より朝鮮山を見渡シ申候処少シ遠く相見へ候故四拾里程と申上候

右之通此度被為遊御尋候ニ付、古来書留置候趣相殘候水主共へ相尋

書付差上申候、以上

大谷九右衛門

享保九丙辰年

伯州米子町人

閏四月三日

村川市兵衛

右之通御座候

- 一 右竹嶋東西之広サ大概之絵図仕差上候写シ左之通御座候、委細之儀^者

別ニ大絵図所持仕罷有候、尤竹嶋之儀磯竹嶋共申候得共古来より

54

御公^江辺差出シ候所之書付^ニ者竹嶋と唱来候、且絵図之通濱田浦
着船之所より竹か浦迄^者里余竹藪^ニ而御座候、ケ様之儀^ニ付
竹嶋^与唱候と奉存候

竹嶋大概之絵図如左

- 一 竹嶋大廻り拾里余竹嶋より
朝鮮^江四十里計り

朝鮮国 北浦 大坂浦 まの嶋 まの嶋

柳浦 竹嶋 古大坂浦 いか嶋 松嶋

北国浦 竹ヶ浦 此間四十間斗り

濱田浦入津所 松嶋

是ヨリ濱田浦へ四十里計り

唐船ヶ崎

西

55

隠州嶋後

東

福浦

隠州焼火山 是ヨリ松嶋へ七十里計り

隠州中嶋 中嶋より福浦へ八里

隠州千振 雲州雲津 雲津より千振へ十八里 隠岐嶋前三嶋

雲州美保ノ関

右之通御座候

- 一 御尋^ニ付右御請書并絵図相添差上候處再忖之

御尋之趣如左

- 一 米子より出雲国雲津浦出船之所迄海路陸路何程有之候哉、但海上迄致
往来候哉

- 一 文禄五壬申年朝鮮人^ニ出合候節米子より渡海之船頭水夫其外人数

56

何程并船何程^ニ而罷越候哉

- 一 翌六年癸酉歲罷越候節船数并人数何程^ニ而致乗船候哉一渡海 之節前々弓鉄砲致用意罷越候哉
- 一 同七甲戌年同八乙亥年両年罷越候節
- 一 朝鮮人^ニ出合候翌酉年罷越候節竹嶋^江朝鮮人大概何程有之候哉

右之通再応之御尋ニ付御請書差上候趣如左
乍恐口上之覚

- 一 伯耆国米子より雲州雲津浦迄之道法米子より濱目境村迄
陸四里半出雲国宇井浦江五丁計之船渡り御座候夫より同国
三保ノ関江式里三保ノ関より雲津江者陸路壱里都合七里半五丁

57

- 一 米子より雲津江船路九里

- 一 元録五壬申歲村川市兵衛大谷九右衛門竹嶋江相渡申候船式百石計
積申候船壹艘遣申候、船頭水主式拾壱人鳥銃五挺槍三筋遣申候
尤其節居申候唐人三拾人計見及申候

- 一 元録六癸酉年之渡海船壹艘船頭水主式拾壱人鳥銃五挺
鐘三筋持参仕候、其節之唐人大勢と計控ニ御座候、前々船式艘遣候節者鳥銃
拾挺計遣申候、弓ハ遣シ候義無御座候

- 一 戌亥兩年渡海仕候節船頭水主船数鉄砲数鐘等同前ニ遣申候
竹嶋ニ居申候朝鮮人壹年ノ増亥年杯ハ所々ニ五拾人三拾人程宛
大勢罷在候由ニ御座候、以上

58

伯州米子町人

大谷九右衛門

享保九年辰五月十日

伯州米子町人

村川市兵衛

右之通御座候

- 一 再応之御尋ニ付右御請書一通差上候、以後重而
御尋之趣如左

- 一 竹嶋江致渡海候船頭水主存候故ニ罷在米子江住宅之者候哉
右之通御尋ニ付御請書奉差上候趣如左

乍恐口上之覚

- 一 米子灘町弥三兵衛与申者七十式歳ニ罷成申候、四拾年以前ニ竹嶋江
59

壹度渡海仕候、此度鳥取江召連参候者御座候

- 一 米子同町長右衛門与申者五拾三歳ニ罷成申候、私共鳥取江参候時分ハ船ニ而

罷出近比罷戻り申候付様子相尋申候得共元録四年より同六年迄三年之間

渡海仕候様ニ申候、私共儀右之者十九歳か廿歳計ニ而壹度渡海仕候様

覺申候故右之通申候上候処、今度直ニ相尋候得^者唐人渡海之節兩年^者兩年共参申候由御座候

一 米子片原町長兵衛^与申者六拾三歳ニ罷成申候、此者前々四月中旬船^{ニ而}罷出未罷帰不申候故委細相知不申候

一 米子立町源右衛門^与申者八拾四歳ニ罷成申候、三拾七年已前四度渡海仕候由申候

60

一 米子灘町吉兵衛^与申者七拾九歳ニ罷成申候、四拾三年已前拾度渡海仕候様申候、右兩人ハ極老步行不叶候故右鳥取^江召連不申候

右之通御座候

一 米子片原町太兵衛^与申者七拾貳歳ニ罷成申候四拾四年已前兩度渡海仕候由申候

一 米子立町惣兵衛^与申者七拾五歳ニ罷成申候、四拾六年已前^ニ兩度渡海仕候由申候、右兩人之儀^者私共急ニ鳥取^江罷越候^ニ付相知不申候処、今度御尋之上^{ニ而}申出候間書付差上申候、以上

伯耆国米子町人 村川市兵衛

大谷九右衛門

享保九年辰六月廿三日

61

右之通御座候

一 右享保九年辰四月竹嶋渡海之次第從江戸御尋之節尚又從鳥取

御尋之條々則以御書付被為仰出候趣如左

申渡之目錄出来之節

別紙ニ認之品左之通

一 從三拾三年三拾老年跡迄遣候船頭老人^茂存候故不仕候ハ^者其通を書印候事

一 今度召連候老人^茂三拾三年より已前之水主^ニ有之候者其段も書印候事

一 唐人竹嶋^江参居候節家宅^者拵不申兩人方之船方共之小屋掛

残シ置夫^ニ居申候旨其通書印候事

62

一 件之節已前唐人竹嶋^{ニ而}見不申候ハ^者其通書印候事

一 元祖之名只今之市兵衛迄何代

一 九右衛門同事

一 竹嶋御免被遊渡海初り年号等

一 右之儀御執持被遣候御旗本衆御名并御執る持被下候由

一 新太様^江御老中より御奉書之写シ

一 御紋之風見御免被遊候品

一 兩人先祖江戸^江御目見^江罷下り候初年号

享保九甲辰年四月

右之通御尋^ニ付御請書一通差上候處尚以祖父村川市兵衛儀

63

出府被仰附候趣如左

覺

一 村川市兵衛儀御用之事候間早々当地^江可罷越候

一 市兵衛当地^江罷越刻新太様御代御老中御奉書可致持参候

一 大殿様御代荒尾内匠^江從宗對馬殿之御状可致持参候

一 其外古来より竹嶋渡海^ニ付覺書可有之候間不殘持参可申候

一 市兵衛不おほへ^ニ有之^者存知候者召連可罷越候

六月日

右之通御座候、就夫祖父村川市兵衛儀乍恐出府仕御尋之次第委細

御請申上候条、尤右持参仕候所之從

64

對馬守様内匠様^江被為預御挨拶候御書之写シ如左

尚以庄五郎殿御在江

戸之由承候故江戸^ニ此等

之通直^ニ申達候、朝鮮^{ニ而}ハ

馳走之様子^者彼弥三右衛門

定而可申入候

一 書令啓候、就^者

庄五郎殿御領分

伯州之内米子

村川市兵衛代官

弥三右衛門竹嶋渡

海仕用所相仕廻

六月之末帰国之

65

刻被放風朝鮮国

之内府山之浦漂

流仕候处、日本人

故於朝鮮表別^而

念を入此方へ被相

送候条彼弥三右衛門

与七郎_ニ我等ハ相

添送遣候、委曲

沼川次兵衛可申入候

間不能一二候、恐々

66

謹言

宗對馬守

書印

八月廿六日

荒尾内匠殿

御宿所

右之通御座候

一 右祖父村川市兵衛儀江戸_江始_而罷下候節元録_(イイ) 式巳六月於

御国屋敷從志摩様御公辺之儀万々蒙御差図候趣、尤

但馬様より米子御役所_江被仰達候御書之写シ并右祖父

67

村川市兵衛儀江戸より罷歸候節右為御礼擎愚札候之処、御披露

之為御返翰從但馬様御書被成下候類、尤從外様或_者

年始御祝書差上候節右御披露之為御返翰御書被成候処

相遣之写シ如左

一 筆申入候、然_者村川

市兵衛恠先頃江戸へ参

着申候得共相煩申由_{ニ而}

去ル六日荒志摩長屋_江

参万々御差図次第_ニ

可仕_与申_ニ付御聞役衆

68

被申談江戸_{ニ而}之首尾

具_ニ被申喰候

殿様_江去ル七日首尾能

御目見仕候村川市兵衛恠_与

在之候_而ハケ様之者共父子

公方様^江御目見難調旨
此度

公方様^江之御目見若調不
申儀も可有之^与御聞役共
申、就夫何^茂被致相談親

6
9

市兵衛義^者年罷寄最早

江戸^江罷越儀難成^ニ付、此度

悴罷越候、則名をも市兵衛と

申候^与申込候^者

御目見調安可有之^与志摩

被存名改親之名^ニ被改候由

志摩より我等方^江右之趣

被申越候、此旨可被得其意候

一 親市兵衛儀早々名を

いヶ様共替申様可申渡候

7
0

一 最早此已後^者親市兵衛

江戸^江不罷越悴市兵衛迄

参候様親市兵衛^江可申渡候

一 村川儀江戸仕廻候ハ^者直其元へ

帰候様^ニと当春各へ申渡候得共

江戸より直々当地^江罷越首尾

能候^而直々当地^江参候様^ニと

江戸^江之便^ニ村川方^江

家来方より申遣候、恐々

謹言

7
1

但馬

書印

六月廿一日

柴山甚内殿

鷺見佐左衛門殿

白井七左衛門所迄飛札

殊以串海鼠一折到

来心入之段欣然候

公方様^江首尾能

御目見相済候由一段之

7
2

仕合候猶七左衛門

可述候也

但馬

書印

九月十二日

村川市兵衛とのへ

飛脚殊雉子番

到来紙面之趣令

委聞候、入念段満足

7
3

申候、此度願首尾能

相調一段之事^ニ候得^者

荒修理

書印

十二月十五日

村川市兵衛殿へ

修理年賀為祝詞

其地從町中飛脚

殊肴一種到来

令満足候、遠路

7
4

被入念段一入、猶

白井七左衛門より可述候

謹言

玄蕃

書印

正月晦日

村川市兵衛殿

大谷藤兵衛殿

宮本三郎右衛門殿

為年甫之嘉儀

7
5

家頼所迄来札殊

一種到来、欣然之至候

弥無異加年之旨

一段之事_ニ候、謹言

上総

書印

正月十三日

村川市兵衛殿

右之通御座候、今以年始御祝書差上候_ニ付

平右衛門様より当時天明三卯二月右御披露之

7
6

為御返翰私_江御書被成下候写シ如左

為年甫之嘉儀

家来方迄来札

欣然_ニ候、弥無異

加年一段事_ニ候謹言

平右衛門

書印

二月朔日

村川市兵衛殿

7
7

書状令披見候、如来意

新正之慶賀申籠候、愈

御無異加年旨珍重存候

平右衛門殿堅固被致

超歳候、為年甫之嘉儀

紙面之趣遂披露候处

被入念候儀則被及書中候

恐惶謹言

林新兵衛

二月朔日 書印

砂川源五右衛門

書印

村川市兵衛殿

78

右之通御座候

一 御入国已来尤私共祖父之者迄例歳竹嶋渡海仕候節鳥府御用之趣以御注文被仰付候所之御書付并御用之品々被召上候節御小目録被成御渡シ被成候、ケ様之類^茂余夥所持仕候処及紛失申候、尤相残候御書付写シ如左

覚

一 上々串鮑 五千貝

一 上串鮑 三千貝

一 中串鮑 貳千五百貝

一 上々丸干 三千六百貝

79

一 上丸干 三千貝

一 腸漬鮑 貳百貝

一 鮑腸塩辛 壹斗五升

一 木耳 貳斗

右之品々

殿様御用也

牧野清左衛門

正月十一日

村川市兵衛殿

(貼紙)

「正徳五乙未年より安政五申年迄^永

永 六十二年^ニ成

安政六酉年より文久元酉年迄

八十五年^ニ成

合百四十七年」

80

竹嶋串鮑目録

- 一 上々串鮑 拾五連
- 一 上串鮑 拾五連
- 一 上丸干鮑 三百貝
- 一 中串鮑 七十連
- 一 腸漬鮑 壺斗
- 一 腸塩辛 壺斗
- 一 木くらけ 五升

右者

大殿様御用候、以上

81

牧野清左衛門

正月廿九日

村川市兵衛殿

覚

- 一 中々串鮑 三拾連
- 一 中丸干 五百貝
- 一 下丸干 貳百貝
- 一 腸漬鮑 百貝
- 一 腸塩辛 八升
- 一 右之通

82

壺州様御用ニ候

牧野清左衛門

正月廿五日

村川市兵衛殿

覚

- 一 上々串鮑貳拾三連 内 五連市兵衛江戸土産ニ被遣 拾八連ハ此方江被召上候
- 一 上々串鮑百連 内 貳十五連ハ市兵衛へ被遣候 七十五連ハ此方へ被召上候
- 一 中ノ串鮑百拾連 内 三十連ハ市兵衛へ被遣候 八十連ハ此方江被召上候
- 一 下ノ串鮑百拾連 内 拾貳連ハ市兵衛江被遣候 九十八連ハ此方江被召上候

83

一 下々同百三拾八連^者不殘市兵衛^江被遣候
右串鮑都合四百八拾^弍連

内 上々上中下合式百七拾^弍連ハ此方^江被召上候

上々上中下合式百拾連ハ市兵衛^江被遣候

一 桐ノ木拾本之内 太キ宜木三本被召上候

殘る七本ハ市兵衛へ被遣候

一 油木海月 此方御用無御座候

一 上々串鮑 直段^弍連付 丁銀七匁宛

一 上同 直段^弍連付 同五匁九分宛

一 中同 直段^弍連付 同四匁式分宛

一 下同 直段^弍連付 同三匁分宛

84

右之直段^弍被召上候間左様可被仰渡候

一 桐ノ木 直段付無御座候拾本之内太キ能木

三本直段可被仰下候、以上

山住源右衛門印形

寛文四年六月十八日

宮田吉左衛門印形

大脇太左衛門殿

坂川文左衛門殿

金万八右衛門殿

右之通御座候

右竹嶋渡海御禁制之旨元⁽⁴⁴⁾録 九年子ノ八月於鳥府被仰渡

翌元⁽⁴⁴⁾録 十年丑八月祖父村川市兵衛儀江戸^江罷下り竹嶋渡海

85

御制禁之趣御請申上候^弍付、則御公儀^江差出候所之書付并
御国屋敷^江御歎之願書差出候、右兩度之控相殘之写如左

乍恐口上之覚

一 去年子歳八月上旬從

松平伯耆守殿被仰渡候、此度以

御奉書竹嶋渡海之儀向後御制禁被仰付候条

其通相守可申之旨御座候、其段奉畏候、以上

伯耆米子町人

村川市兵衛

元録 元⁽⁴⁴⁾年丑九月日

86

乍恐口上之覺

- 一 私儀先祖より竹嶋渡海之所務を以渡世仕候処、去秋竹嶋渡海之儀制禁被為仰付当時渡世之經營難相成迷惑至極奉存候
大屋九右衛門世^者幼少^ニ罷在候故私儀此度御当地^江罷越申候、何卒殿様御威光を以渡世之願^茂仕、前々之通御目見奉願度奉存候
恐多奉存候得共以御慈悲右之願御取上^ケ被為下候ハ^者難有可奉存候、依^而右之段奉願候、以上

元録 十年丑九月廿一日

村川市兵衛

吉田平馬様

小谷伊兵衛様

87

右之通御座候、尤右享保九年閏四月鳥府御尋之條々御請書
壺通差上候写シ如左

乍恐口上之覺

- 一 三拾三年より三拾壹年跡迄竹嶋^江渡海之船頭水主存命^{ニ而}居不申候
雲州并隱岐国より過半召抱申候、右之所之者存命^{ニ而}罷在候哉、此段不奉存候
一 三拾三年已前竹嶋^江渡海仕、只今相残居申候者五人御座候内^者式人
廻船^{ニ而}罷出宿^ニ居不申候、残り三人之内^者式人八十^ニ罷成申候、此度召連申候七十^ニ歳^ニ罷成申候
一 此度召連候弥三兵衛と申水主ハ三拾三年より已前渡海仕候者御座候

88

- 一 唐人竹嶋^江参居申候節自分小屋拵申哉と被成御尋候、自分拵

申候様子^{ニ者}相見江不申候、毎年此方より拵候小屋^ニ居申候由水主共申候

- 一 三拾三年已前竹嶋^{ニ而}唐人見申候哉^与被為遊御尋候、元和年中以後

唐人見不申候由其節申上候

- 一 私共先祖何代渡海仕候哉と被遊御尋候村川市兵衛三代已前より渡海

仕名^茂三代共市兵衛^与申候

- 一 大谷九右衛門儀唯今迄四代竹嶋渡海御免之節^者甚吉^与申候後

三代ヲ九右衛門^与申候

- 一 竹嶋渡海被為遊御免候年号御目見仕候年号并其節

御執持被遣候御簾本衆御名前之儀并御執持被下候、御由緒之儀

89

被為遊御尋候、元來村川市兵衛義先祖之儀_者

權現様御代天正九年四月於摂州表聊御奉公筋之儀共御座候、其後中国_江

罷下り伯州之内住居仕候处、新太郎様因幡伯耆被為遊御領知候節

元和年中御仕置之為上使阿倍四郎五郎様御越之刻、私共先祖之

者共隠州之海上竹嶋_与申孤嶋_江渡海仕段御訴詔申上、翌年江戸表へ

罷下り候所、右御由緒之儀共御詮儀之上新太郎様_江以御奉書竹嶋

渡海之儀被為仰附、自夫兩人隔年_ニ渡海仕候、尤八九年之内老人宛

罷越

公方様_江御目見申上候、尤初_而御目見申上候、年号月日相知不申候

一 御紋之風見之儀代々蒙御免候、是又御免之品合相知不申候

90

一 元録₍₄₄₎ 十年丑八月村川市兵衛儀江戸_江罷越

殿様御威光を以竹嶋渡海之儀相歎候得共嶋之儀_者相調不申由_ニ付、大勢之

水主共勝手必至_与取続不申、其上病氣_ニ付、同十六末年三月於

御国屋敷御暇願在所_江罷帰候、以上

村川市兵衛

享保九甲辰年閏四月三日

大谷九右衛門

右之通御座候

一 右_ニ書頭候通私祖父之儀_者

御公儀_江御訴詔之節尤祖父大谷九右衛門儀参府仕候条自分日記

之写_シ左之通御座候、尤御公儀之御請披而已拔書仕候写_ニ而御座候

91

委_者是又別_ニ書付共所持仕罷有候

御公儀_江御訴詔之御請自分日記之写_シ如左

一 御公儀_江差出_シ候所之願書老通添書式通并由緒書一冊元文五年申四月

從四月八日

太守様御公儀_江御達之儀河村彦十郎様被成御執計、則私儀寺社御奉行所

牧野越中守様_江御差出被成候事

一 越中守様御内寺社方御下役田中小右衛門様荒木伊左衛門様次藤文左衛門様

御三人之内小右衛門様御手_ニ付申候、乍恐私共奉差上候御願書御取上ケ

御見分被成候上_ニ而段々御尋之趣_ニ御座候、随_而御請委細_ニ申上候得_者

御尋之儀相済申候御事

92

一 田中小右衛門様被仰聞候趣右之願書、則越中守様御前^江差上可申候
御見分被為成候上^{ニ而}追^而可被召出候間得其意罷歸申候様^ニと被仰候^而
奉畏罷歸候事

一 御国屋敷^江参上仕右之趣委細^ニ御役人様方^江御注進奉申上候事
申四月十七日牧野越中守様より御差紙を以明十八日四ツ時^ニ

御屋鋪^江私儀罷出可申^与被仰付候、右御請書差上、随^而十八日

四ツ時参上仕相窺罷在候得^者、御奉行様方例月之通御寄合

被為成諸願之御吟味相始り私儀被為召出相窺居申御奉行様

方御座席之次第

一 牧野越中守様

9 3

一 本多紀伊守様

一 大岡越前守様

一 山名因幡守様

右之通御連座被為成御次之間御家々之御下役衆中様方

御連座被成候、其次之間^{ニ而}私共奉差上候御願書御役人様方

御持出シ被成候^而御奉行様方御前^{ニ而}御読上被成候^而相終り申候

其上^{ニ而}越中守様被為成御意候趣九右衛門竹嶋之支配を誰か

致候哉^与御尋被為成候、随^而御請申上候、竹嶋支配之儀^者先祖之者共

相蒙私共迄^茂支配仕来り候由申上候、則御奉行様方御一同^ニ

夫^者重キ事哉^与御意被為成候、次^ニ御尋之趣竹嶋松嶋両嶋

9 4

渡海禁制被為仰出候、以後^者御領主より御憐愍を以渡世仕罷有候

願書^ニ書頭候段然^者扶持杯請申候哉と御意被為成候、随^而申上候御夫持

^{ニ而者}無御座御憐愍を以と書上候儀^者米子御城下^江諸方より

持参候魚鳥問屋口錢之儀、則私家録^ニ被為仰附候、并同役村川

市兵衛儀^茂御城下^江入込候塩問屋口錢之儀被為仰附候兩人共

右之品忝御恩賜置奉存候旨申上候、其上^{ニ而}大岡越前守様

御意被為成候趣九右衛門此添書^ニ書頭候通大坂御廻米船⁽⁴⁴⁾滞^り之儀

并貫物連中^ニ加り申度儀弥御願申上候哉^与之御尋^{ニ而}御座候、随^而

御請申上候趣天道^ニ相叶御憐愍之筋相下り申候^者右之式品乍恐

御願申上度旨申上候、然^者又越前守様より被為成御意候之趣

9 5

九右衛門此両品之儀^与長崎表之儀^者長崎御奉行所之作廻并御廻米之義ハ

御勘方掛り^ニ有之候得^者此方之作舞^{ニ而}無之候故此義^者御勘定方へ

相願申候_而可然筋_ニ候、此方之了簡_ニ不及_与被為仰出候得_者

越中守様紀伊守様御一同御意被為遊候趣、イヤ／＼左様_{ニ而者}無御座候

九右衛門御願筋、則御上_江御伺申上候_而其上御差図次第_{ニ而}御勘定方

長崎御奉行所_{江茂}差出シ可申_与御詰開被為遊候御事_ニ御座候、又

越中守様被為遊御意候趣、九右衛門竹嶋_者大嶋と絵図_{ニ而}相見候嶋山之

風景竹木草類禽獸之類日本之模様_{与者}品少々_者相替り申候哉と

御尋_{ニ而}御座候、随_而申上候、私先祖甚吉儀_者自分渡海仕候_而其身竹嶋_{ニ而}

病死仕候、其已後_者嶋主共兩人共自分渡海不仕候故私儀眼前之儀_者

96

不奉存候、旧記_ニ書頭差上申候通御座候ハ、御請申上候其上_{ニ而}越中守様

紀伊守様因幡守様より海馬之魚と申_者如何様之形恰好成もの_ニ候哉

_与御尋被為成候、随_而申上候みちの魚と申ハ頭鹿のことく両鰭長く

尤鰭先キニ爪有之能陸_ニも上り候、尾頭_者矢筈_{ニ而}一体_ニも生ひ

毛色鹿の毛のことく_{ニ而}御座候大海馬_与申候得_者馬程も御座候

条並嶋猫之儀皆黒色尾頭切居申候由御請申上候、此外辰砂

岩緑青馬脳杯之儀御尋被為成候随_而御請申上候、然_者

越前守様被為成御意候_者九右衛門兎角此御廻米並貫物之儀_者

其持口之役所_江願申可然候此方共之作廻_{ニ而}ハ俣ならざる事_ニ候

と御申被為成候得_者越中守様紀伊守様より被為成御意候ハ

97

イヤ／＼兎角御上_江御窺申、其上御差図次第_{ニ而}御勘定所_江九右衛門儀

差出シ可申_与被為成御意候得_者御吟味之趣相済申候、田中小右衛門様被

仰候_者最早九右衛門すたり候へと之儀御座候_而奉畏罷立候御事

御国屋敷_江参上仕今日於御役所奉差上候御願書委細之御吟味

相済、随_而乍恐御請申上候儀御役人様方_{江具ニ}御注進申上候御事

申四月廿四日牧野越中守様_江乍恐為御窺参上仕候、其節田中小右衛門様

荒木伊左衛門様次藤文左衛門様御出合被成被仰聞候御口上之趣ハ其方

御願之儀去ル十九日寺社御奉行所御仲間合様方御登城之節

則御老中様_江御差上御披見_ニ及申候間追_而御沙汰之趣相下

可申候_与之御事_ニ御座候_而其旨奉畏難有奉存上候段申上

98

罷歸申候御事

一 申五月三日越中守様_江乍恐為御窺参上仕候得共、田中小右衛門様

御出合被致候御口上之趣其御願之義未何之御沙汰相下り不申候

然_者其方より被差出候由緒書_ニ被書頭候所_者御老中様方より

為御礼其方旅宿_江御口上書并参勤之御礼被申候節於

御城御書出シ之御書附等何角取揃御奉行所様^江差上可被申候^与
被仰附候、随^而申上候、乍恐御願申上度奉存罷在候、爰^ニ御役所様より
御差図を以右之御書附奉差上可及御見分之段難有奉存候^与御請
申上罷帰候御事

一 申五月六日右被為仰附候御古書差上候目錄左之通

99

一 朝鮮国より竹嶋渡海之船頭水主^江被遣候御餞別之目錄式通

一 松平右衛門大夫様より私先祖之者出府仕候節旅宿^江被下置候御使札^江通

一 秋元撰津守様より先祖之者出府仕候節旅宿^江為御札御口上書被
下置候^江通

一 加藤佐渡守様より私出府之節為御札旅宿^江被下置候御口上書^江通

一 酒井讃岐守様より阿倍四郎五郎様^江先祖之者出府仕候節被為進候
御手紙^江通

一 大久保宮内少輔様より私先祖之者^江被遣候御状^江通

一 阿倍四郎五郎様より私先祖之者^江被遣候御状^江通

一 長谷川正悦様より私先祖之者^江出府仕候節為御札御手紙一通

100

一 公方様^江御目見被為仰附候節參勤独礼之次第御書出シ^江通

一 松平新太郎様^江御宛之御奉書之写シ^江通

一 松平伯耆守様^江之御奉書之写シ^江通

以上十四通奉差上候

一 其以後^者五月七日^ニ御役所様^江乍恐為伺參上仕候、然共重キ

御事御座候得^者其年^茂及暮^ニ申候御事

一 明ル酉ノ二月十一日牧野越中守様より御差紙を以明十二日四ツ時

御役所^江罷出可申^与被為仰附御請書差上、随^而十二日四ツ時

御役所^江參上仕相窺罷在候得^者田中小右衛門様御出合被成

尤去申五月六日越中守様^江差上申候御古書拾四通御指出シ

101

被成御改以上拾四通、則私^江御返シ被成候、其上^ニ被仰候、右書去ル

五月六日差上被申候、以後今日迄則

殿様御居間御床之上^ニ被為置候、尤御仲間様方御寄合被為成候

節御取出シ被為成候^而御見分^ニ及候^而是^者由緒正敷事^与被為成

御意候、右之筋^ニ付此度御歎申上候儀尤不便成事と被為思召候^而

則書上申候式通之内^ニ忝品^ニ而^茂埒明遣シ申度物と被為成御意候

旨、則小右衛門様被仰聞候、随^而難有仕合奉存候趣御請申上候御事

一 小右衛門様被仰候^者右古書御読被為成候^ニ付御役所之御帳面

繰ヲ被為仰付相改見申所ニ其方共先祖より御上江御目見之
次第委細ニ有之候由被為仰聞候御事

102

然者其方共御願書添状ニ書付被差上候条大坂御廻米船借之儀
於御城御勘定方御奉行様方江寺社御仲間様より委細被仰達
置候、則当月水野對馬守様御当番ニ得者右御寺社御役所江
被差上候通御願書添書由緒書等相認候而對馬守様御屋敷
江罷出御取次之役人衆迄其方可申上口上之覺

牧野越中守様より於御城先達對馬守様江御達被為置候
願人伯州米子之町人大谷九右衛門儀御願書由緒書以上四通
乍恐差上申候寺社御奉行様より被為成御差出シ候故乍恐參上仕候
御憐愍を以願書之趣御沙汰宜敷相下り申候様偏ニ奉願上候
迄可申上候、斯之通被仰付候、其旨相蒙難有奉存候、然者吉日ヲ

103

撰二月十六日對馬守様御屋敷小川町通江參上仕候而右御下知
之通御取次衆中様迄申上候、則御願書由緒書以上四通差上置候
御請取被成候而對馬守様御前江被差上之暫時有之御取次
衆中様御出被仰聞候御口上之趣願書御取上被為成候、追而可被
為召出与之御意候間其旨相心得可被申与被仰出候故奉畏候与
御請申上罷歸候事

一 牧野越中守様江參上仕右之趣田中小右衛門様江申上候御事
一 御国屋敷江參上仕御役人様方江右之趣御注進申上置候御事
一 同二月十七日之夕水野對馬守様より御差紙を以明十八日四ツ時
神田橋通神尾若狹守様御屋敷江罷出可申与被為仰附候

104

御請書差上申候而随而十八日四ツ時御屋敷江參上仕相伺
罷在候得共御取次衆中様より九右衛門罷出候得与被仰候故乍恐
罷出申候御座席之次第

一 神尾若狹守様
一 水野對馬守様
一 神谷志摩守様
一 河野豊前守様
一 木下伊賀守様

右之通御連座被為成御次之間ニ而私共奉差上候御願書
御役人様方御持參被成候而御読上相濟申候上ニ而若狹守様

105

より被為成御意候之趣九右衛門国本^{ニ而者}何を務ル事^{ニ候哉与}御尋御座候、随^而申上候同役村川市兵衛私儀御城下米子町年寄御役儀代々相蒙相勤罷在候^与申上候得^者其上^{ニ而}被為成御意候家業^者如何様成売買致候哉^与御尋御座候、随^而申上候私共儀諸商売不仕候右御願書之書頭候通元禄九年竹嶋渡海制禁被為仰出候已後^者因伯之御太守様御内伯州米子之御城主より御憐愍を以渡世仕居申候段申上候得^者然^者御扶持ヲ得申候哉と之御尋^{ニ而}御座候、随^而申上候右様^{ニ而者}無御座、候米子御城下被持来り候魚鳥之間屋見せ之座ヲ私家督^与被為仰附候、則問屋口錢取仕候并同役市兵衛儀ハ御城下^江入込候

106

塩問屋口錢取被仰附置候此口錢を以渡世仕居申候是以乍恐公方様御大恩之御余光^与奉存難有仕合奉存候旨申上候其上^{ニ而}對馬守様被為成御意之趣

公方様^江御奉公之筋^者如何有之候哉^与之御尋御座候、随^而

申上候様御請申上候段恐入奉存候、乍去元禄八年朝鮮国王より竹嶋^与申^者從古来日本之御支配^{ニ而}御座候との御證文を

常憲院様御代被為遊御請取候、然^者竹嶋日本之御支配^与

奉存候儀^者乍恐元和年中村川市兵衛大谷九右衛門先祖之者共

安倍四郎五郎様御執持を以御注進仕候^{ニ付達}

上聞、則日本^江被為遊御支配候、依之私共^江渡海被為仰附候

107

尤右竹嶋より御公儀^江極たる御蔵入^者無御座候得共、唐木之類御用木を^茂年々公納相勤元和已来八拾年之間九年^{ニ老度}

参上之御礼申上難有仕合奉存候、右之通御座候得^者竹嶋と申^者

日本之御支配成との聞を御公儀^江御取被為遊候義^与奉存候

此段毫末之御奉公^{ニ茂}相当可申哉誠以恐入奉存候得共

御請申上候由申候其上^{ニ而}對馬守様被為遊御意竹嶋竹木

草類禽獸海馬之魚鮑杯之儀御尋御座候故随^而申上候

此趣之儀^者委細旧記^ニ書頭シ差上申候通^{ニ而}御座候由申上候得^者先御吟味之儀是迄^{ニ而}相済申候

對馬守様被為成御意候趣追^而御評儀被為成候^而可被為

108

召出旨被為仰附候^而奉畏即御役所罷帰候御事

一 牧野越中守様^江参上仕今日御勘定御奉行様^江被為召出候得^而

差上申候御願書御見分被為成候上^{ニ而}段々御尋之趣御座候、随^而委細

御請申上候得^者先^者御吟味相濟申候、右^乍恐御注進奉申上候旨申上候得^者、即田中小右衛門様御承知被成候御事
御国屋敷^江參上仕右之趣御役人様方^江委細御注進申上候御事
西四月十七日水野對馬守様より差紙を以明十八日四ツ時御屋敷^江罷出候様被仰附候御請書差上、随^而十八日四ツ時參上仕相伺罷有候得^者被為召出御奉行様方御連座被為成候^而、則對馬守様被為成御意候^者九右衛門差上申候願書御廻米船借儀是^者

109

於大坂とま屋久兵衛越前屋作右衛門^与申者年切^{二而}作廻仕申候御儀定之年相達不申内^者御役所より之返事之儀難申附也、然上^者右之兩人之船借り共へ其方より相對致候^而船借り役人^江相加り可申哉、右之通候上^者役所より返過之儀難申付候^与評儀一決申也、其旨相心得可申^与被為仰附候、随^而御請申上候趣先以及御沙汰申上段難有奉存候、此上追^而御慈悲相下り申候義乍恐御願申上度^与申上すさり申候御事
牧野越中守様^江參上仕右之趣田中小右衛門様^江申上候得^者御承知被成候^而小右衛門様御申被成候^者先刻御勘定所御奉行所より寺社御奉行御仲間様^江御使者相立候御口上之趣大谷

110

九右衛門差上候願書見分申上候評儀申候処船借之儀於大坂年切作廻仕候者兩人有之候未年限^二及不申候故役所より返過之儀難申付候得^者此段九右衛門^江申渡候、尤右之船借り兩人^江相對致候^而加り可申哉^与申聞候^二て右之九右衛門御差出シ之儀御座候故如此以使^者申達候との御口上書来り申候、則其方罷出御注進被申上候儀御前^江可申上候^与被仰候御事

一

小右衛門様御申被成候^者御役所御仲間様より御老中様^江其方共御願書御差上及見分去年已来老年半^二打過、則御下知相下り此節御勘定所^江其方御差図被成候處右之御返答之趣^{二而者}御上^江相達シ御下知相下り申候處相濟不申候然^者寺社御仲間様方

111

御寄合之刻此儀御評儀被為成候^而又押返其方可被遣候哉^与拙者共ハ存入候、追^而其方儀可被為召出候之間左様相心得可被申候^与被仰候御事

一

西六月二日牧野越中守様より御指紙を以明三日四ツ時御屋敷^江罷出可申^与被仰附候御請書差上、随^而三日四ツ時參上仕相伺罷在候得^者田中小右衛門様御出合被成候^而被仰候^者先頃其方へ申入候

通先月十八日寺社御仲間様方御寄合之節御勘定所へ又々
其方御差出シ可被遣^与之及御評儀御沙汰申候処、寺社御奉行様
より御勘定所之御指図被為成候^ニ相当り可申哉^与以後之入割
之程御氣付被為成候故重^而其方御差出シ被為成候儀^者

1
1
2

御優予被為成候、然上^者長崎御奉行所^江御差出見度^与御評義
一決被為成候^ニ付先日御登城之節於御城寺社御仲間様方より
長崎御奉行所萩原伯耆守様^江御面談^{ニ而}其方儀御差出シ
被為成候御達被為御願書相認次第^ニ参上仕可被申候^者被仰付候
尤其節可被申上口上之儀牧野越中守様より於御城先達^而
御達シ被為成候伯州米子町人大谷九右衛門御願書乍恐奉差上候
^与可申上旨被仰附候其節長崎御奉行様當時御出府萩原
伯耆守様御屋敷水戸橋長崎御勤番窪田肥前守様御屋鋪
表六町町^与則田中小右衛門様より御書附被遣、随^而申上候御下知
之趣承知仕奉畏候、御願書相認其上吉日を撰

1
1
3

伯耆守様御屋敷^江参上可申上候先以難有仕合奉存候乍恐
御序之刻殿様御前宜御執成奉願上候旨申上罷帰り申候
御事

一

一

御国屋鋪^江参上仕右之段御役人様方へ委細御注進申上候御事
西六月十日長崎御奉行所萩原伯耆守様御屋敷^江御願書
捧参上仕候^而則御取次衆中様^ニ右田中小右衛門様より被仰附候通之口上
申上乍恐御願書差上申候御請取被成御下役中西幸内様御
申之儀追付殿様御屋敷^江御出可被成候、其旨相心得可被申
^与被仰聞其上^{ニ而}御屋敷^江被為召出相窺罷有候、伯耆守様
被為遊御意候趣其方儀国元^{ニ而者}如何様成売買申候哉

1
1
4

御尋^{ニ而}御座候、随^而御請申上候、私共義元^録⁽⁴⁾年中竹嶋松嶋両嶋
之渡海制禁被為仰出以後^者御願書^ニ書頭差上申候通伯州米子
御城主より御憐愍を以渡世仕難有奉存候旨申上候、然^者扶持を得
候欵と被為成御意候、随^而申上候左様^{ニ而者}無御座候、御憐愍と申
上候儀^者米子御城下^江諸方より入込申候魚鳥之間屋店之座
私家督^与被為下置候、同役市兵衛儀^者御城下へ入込候塩
問屋口錢之儀被為仰附候^而渡世仕罷在候是全
公方様御大恩之御余光^与奉存上両人共難有仕合奉存候段乍恐

申上候得^者其上又被為成御意候趣其方共在所^{ニ而}ハ奉行所へ
勤杯申候哉と之御尋御座候、随^而申上候兩人共代々米子

115

町年寄御役相勉申候儀^ニ御座候由御請申上候、又竹嶋竹木草類
禽獸海馬之魚鮑杯段々と御尋御座候、随^而御請申上候御事
伯耆守様被為遊御意候^者九右衛門御上^江差上申候願書及見分
候長崎表貫物入札連中^江相加り申度との儀此事ハ古来より江戸
京大坂堺駿河長崎皆御領^{ニ者}入札連中^江相加り申者之儀
有之也惣御領之外より貫物入札人数^ニ入候事未其例無之也
我等耆人之了簡^ニ不及、尤同役^ニ可申談也、急^{ニ者}請込不成故
先^者左様^ニ相心得可申^与被為仰附候、寺社御奉行様^{江茂}
此段以使者可申達候^与可被為御意候、随^而申上候乍恐追^而何卒
御慈悲相下り申候段幾重^{ニ茂}奉願上候旨申上候^而すさり

116

申上候、中西幸内様被仰候唯今御前^ニ被為成御意候通御領
之外より貫物人数^江相加り候、其例未無之候得^者御耆人様之
御了簡難被為成御事御尤存候、然上^者追々品も可有之候
左様御心得可被申^与之御事^ニ御座候、御請申上罷歸り申候御事
牧野越中守様^江参上仕田中小右衛門様へ右之趣委細申上候得^者
御承知被成此趣殿様^江可申上^与御申被成候御事
田中小右衛門様被仰聞候御口上之趣其方共御願之儀^者
御老中様被為及御沙汰御差図を以御勘定所并長崎
御奉行所^江寺社御仲間様方於御城、則御面談^ニ被為
仰達候^而其上其方御差出被為遣候處、則御両御役所より

117

右之御断^{ニ候而者}相濟不申事候、追^而御仲間様方御寄合之節此儀
御評義可被為成候、其上^{ニ而}可被為召出候間左様相心得可有之^与之
御事^ニ御座候、随^而申上候私共体儀ケ様迄^ニ御苦勞奉掛申上候段
千万恐入申上候、然共御慈悲^者御上より相下り申儀御座候得^者
乍恐幾重^{ニ茂}御慈悲之段奉願上候^与申上罷歸申候御事
御国屋敷^江参上仕御役人様方^江右之趣委細御注進申上候御事
西ノ八月十七日牧野越中守様より御差紙を以明十八日四ツ時
御屋敷^江可被出候被為仰附、則御請書差上随^而十八日四ツ時
参上仕相窺罷在候得^者田中小右衛門様御出合被成
越中守様御口上之趣此度其方共断之儀尤此度

118

由緒正敷有之付^而、則御上^江被為成御達御老中様及御沙汰御差図ヲ以御勘定所并長崎御奉行所^ニ其方御差出シ被為成候所右御兩御役所より右之御断之儀以御使者被為仰達候、尤其方^{江茂}右之通被為仰渡候条依之寺社御仲間様方此儀及御沙汰又々押返シ其方儀右之御兩御役所^江御差出シ可被為成儀^ニ候得共其方^ニ之御奉行所^与申^者重キ御事候得^者入割如何哉^与又御用捨之儀も有之候、然上其方共儀不便被為思召候、依之江戸京都大坂其外於御領當時御公儀^江之御為次^ニ其身之潤共可成^与存付之儀^茂有之候^者早々書附ヲ以罷出御願可申上候御吟味之上^{ニ而}宜可被為仰附候間其旨

1
1
9

相心得可申^与被仰附候、随^而御請申上候、重々以御慈悲之御下知相蒙申上候段千万恐入難有仕合奉存候、乍恐御前宜御執成奉頼上候、然上^者御国屋敷^{江茂}此旨相達可申^与色代仕罷有候御事

一

御国屋敷^江参上仕御役人様方^江右之趣委細^ニ御注進可申置候御事右^者元文寛保之際御公儀^江御訴詔之御請并竹嶋渡海

之次第先規より書附之写シ荒増如茲御座候尤竹嶋渡海制禁之後享保九甲辰四月御公儀御尋之儀^ニ付委細御請書仕鳥府表^江差上之候、依之右祖父大谷九右衛門事元文五年四月参府仕御訴詔之趣自分日記迄相写シ置候、尤右延享

1
2
0

元年より當時天明四年迄四拾年^ニ相成申候、以上

伯耆国米子町人

村川市兵衛

天明四甲辰

大谷政太郎

二月日

1
2
1
(白紙)

1
2
2
(白紙)